

西成区「あいりん地域のまちづくり」 第27回労働施設検討会議 議事概要

1 日 時 平成30年2月15日(木) 午後7時00分～午後9時00分

2 場 所 西成区役所 4階 4-8会議室

3 出席者

(有識者及び有識者オブザーバー5名)

福原大阪市立大学大学院経済学研究科教授

寺川近畿大学建築学部建築学科准教授

ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長

織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事

白波瀬関西学院大学社会学部准教授

(行政機関11名)

大阪労働局 大谷会計課長補佐、宮田職業対策課長補佐

大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、中村課長補佐、ほか4名

西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長、ほか1名

(地域メンバー14名)

茂山萩之茶屋第9町会長

田中萩之茶屋社会福祉協議会会長・萩之茶屋第5町会長

松繁釜ヶ崎資料センター

山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長

山田社会福祉法人大阪自彊館第二事業部長・業務執行理事

山田NPO法人サポータィブハウス連絡協議会代表理事

佐藤公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事

荘保わが町にしなり子育てネット代表

吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表

本田釜ヶ崎反失業連絡会共同代表

山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長

野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表

稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

水野日本寄せ場学会運営委員

4 議 題

・本移転施設の機能について

「センター機能の対外的なPR」ほかの検討

・ご講演

「釜ヶ崎／あいりん／環状線南弧の地力と磁力」

講 師 大阪市立大学都市研究プラザ 教授 水内 俊雄さん

・意見交換

5 議事

(→: ご意見等、○: 有識者、事務局)

- 定刻となりましたので、ただいまより第27回労働施設検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、夜間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
- 本日は、本移転施設の機能の残りの検討項目のご議論に際して、大阪市立大学の水内教授にお越しいただき、これまでの50年の歴史を振り返り、これをどう活かすのかについて、貴重なお話しをお聞かせいただけることとなりました。この地域はもとより、もう少しエリアも広げたお話しをしていただけるものと思っておりますので、よろしく願いいたします。
- お手元の次第に沿って、本日も進めて行きたいと思えます。議題は本移転施設の機能についてということで、今回は有識者の方にセンターを中心に歴史を振り返っていただきましたが、そういった歴史を踏まえて、この地域が果たしてきた役割というものを併せてPRして行くという話しであったかと思えます。そういう意味ではセンター機能だけでなく、それを軸として、この地域のあり様をきちんと振り返りPRしていく。今日はその延長ということで、先程ご紹介のあった講師の方にご講演いただきますので、よろしく願います。では、前回の振り返りについてですが、本日はご講演がありますので、簡単に振り返るということでご了承いただきたいと思います。お手元に、前回第26回の議事要旨並びに議事概要があると思えます。議事要旨の一番下のところの5番目に、議事の趣旨ということで裏面に渡って前回の議論の簡単な内容をメモしておりますので見ていただきたいと思います。今年度は8つの項目について、今後の本移転、仮移転に向けて必要な議論を洗い出し、それについて順に議論してきました。特に後半は、本移転した後のセンターの機能ということを中心としてやってきた訳ですが、言わば締めくくりに当たるような部分を今日は進めて行くというふうにご理解いただきたいと思います。来年度はこれらを踏まえた大切な機能に加えて、それを前提とした規模というところに踏み込んだ議論を皆さんとして行きたいと思っております。前回の振り返りですが、まず一つ目は仮移転施設の整備ということで、議事概要の3ページから7ページ辺りのところで、南海電鉄高架構造物の安全確認についての報告並びに議論がありました。それから二つ目、7ページから9ページ辺りになるのですが、センター利用者やシェルターの運営状況等を鑑みて、居場所をどうするのかというような議論があったと思えます。三つ目には、9ページから12ページ辺りですが、本移転施設の議論と併せて、あいりん総合センターの役割、就労生活支援、特掃等々の問題について、これをどういうふうに考えるのか。それと関連して、12ページから15ページ辺りですが、ガードマンボックス等の仮移転施設における現施設の機能維持ということについても議論がありました。それから、本移転についての議論ですが、16、17ページ辺りで、労働と併せて福祉施設も総括すると同時に、センターのあり方について総合的に見ていく必要があるだろうというところとか、それから暮らしのジェントリフィケーションと言われる問題、それについてどう考えるのかというような議論もさせていただきました。17ページ辺りがちょうどその部分です。非常に雑駁な振り返りで申し訳ないのですが、前回の会議を振り返って、今後は仮移転施設における現施設の機能維持を最大限きちっとやって行くという形で議論を進めて行くということだったと思えます。それともう一つはセンター機能の対外的なPRということで、有識者の方から、センターを中心とした地域の歴史を振り返ってもらい、未来のまちのあり方、センターのあり方について議論を深めていこうと、歴史の観点で未来を見通す、こういう話しをしたかと思えます。そういった内容を踏まえて、本日はさらにあいりんセンターだけでなく、もう少し広くこの地域全体のあり様、歴史を振り返って、もちろん今後未来を考えると、こういうことにして行きたいと思えます。振り返りはこれぐらいにさせていただいて、本日の講演に入っていただきたいと思います。タイトルは「釜ヶ崎／あいりん／環

状線南弧の地力と磁力」というテーマでご講演いただきたいと思います。事務局何かございますか。

○ 結構でございます。

→ こっちはあるよ、一言。前回の経緯で事務局が、私が南海電鉄の人ここに出てきてもらえませんかという話をした時に、あなた南海に話し通してないねんな。先週南海電鉄に行った時に、大阪の労働部からこの会議に出席してもらえますかという打診は一切なかったとおっしゃってましたよ。あなた嘘ついでるの。

○ 私の方では現場の方に、構造物の概要が分かる方、この会議の方から説明を求められていることはお伝えさせていただいております。

→ 現場というのは何のことですか。

○ 南海電鉄本社の方です。委員はどなたにお話しされたのか分かりませんが。

→ 私は〇〇さんと話しました。

○ あの方は営業ですので、技術面では何も分からないので。こちらは現場の方にお話しさせていただきます。

→ 南海電鉄に話しを通してますかということや。どなたにお話しになったんですか。

○ 名前については、ここでは個人情報になりますのでお控えをさせていただきますが、南海の本社から担当が来て、有識者にもお入りいただき、現場も見ていただいて、これについてはどうということ、南海電鉄としてご報告いただいております。その際はこの会議で説明してくださいと言われていたということをお伝えしていますので。

→ ここに出席してくださいというお話しは、どなたかに伝えてくれたんですね。伝えてくれているんですね。現場の人。

○ この会議で説明してくださいというお伝えはしています。

→ 現場の人。

○ ただこちらの方には寄せてはいただけませんということですので、それであれば専門家の方に見ていただいて、南海からご報告のあったことを、先生の方からご報告いただくという形を前回とらせていたということでございます。

→ 現場というのは。

○ 南海電鉄本社のご担当の方です。

→ 現場の方。

○ 技術系の方です。

○ 技術系の方です。以上です。

→ それともう一つ、事務局がこの間おっしゃった労働福祉センターの予算の関係ですけど、違いますね。あなた7億1,900万とおっしゃった。

○ 7億1,900万円というのは申し上げていないと思うんですが。

→ 7億1,900万円とおっしゃったよ。

○ ご講演の関係もありますので、もし細かいことでしたら概要と一緒に後ほどお答えさせていただきます。座長それでもよろしいでしょうか。

○ いただいた質問には後でお答えします。

→ 労働局、国会が空転するって言うてたけれども、予算を発表したら、実際そういうことあったんですか。前回の話やで。

○ ですから委員の質問は後にさせていただけるとありがたいと思うんですが。

→ それは構へん。ちゃんと時間取ってくださいよ。

○ 講師の方が最後に早めに退席しないといけない事情があるので、よろしく申し上げます。

→ その代わりにちゃんと答えてくださいね、今の話し。

- それではご報告いただいて、皆さんと議論するというので、8時10分を目処に進めていただきたいと思います。

<ご講演>

「釜ヶ崎／あいりん／環状線南弧の地力と磁力」

西成特区構想でもイメージアップとかアーカイブ事業とかを徐々にやってきておられますが、センターの今後のいろんな機能ということを考えるに当たり、西成特区構想でも位置付けられたPRなりイメージ向上あるいはアーカイブ事業といったいろいろな資料を残すということをして1つの素材として、今日は提供してみたいと思っております。

私は西成特区アーカイブ事業を動かしておりますけれども、小学校に出前授業で行ったりとか、いろいろな意味で歴史というものを学んでいただくという形で子供たちに教えたりしています。その中で今日は特にセンターを中心に、今後、営みや資産、成果を受け継いでいただくかという時にポイントとなる見方というのを考えてみました。その言葉として、少し変わっていますが「地力と磁力」という言葉を使ってみたのですが、地力というのは、土地の力、あるいは場所の力という言葉がございまして、土地に力があるということは、要するに大地に乗っかる人々、我々の様々な営みの中に知識とか知恵とか情報が込められて発信されている。要するに価値が高いエリアであるという意味を示しております。だから磁力というのは人を引き付ける。もちろん青空市場もそうです。あいりん労働市場もそうです。それから鉄道もそうです。百貨店もそうです。天王寺公園や新世界もそうです。そういう磁力、アトラクション、この2つを軸にこの地域を切り取っていくということは、非常に今後に残る資産になるのではないかと。私は都市計画、都市問題の学びの場ということですが、本当に釜ヶ崎、あいりんから環状線南弧というのは、大阪環状線の天王寺から新今宮、芦原橋ぐらまでを南弧としている訳ですけども、ちょっとそこまで広げた中で本当にすごい力があるということ学ぶ場所がない。あるいは知る場所がない。学習する場所がない。教えていく場所がないということで、やはり是非とも次に残したいなと思っております。都市課題の多い地域でもありますので、まちづくりの人材バンクでもあるということですね。人材がそろっている、地元の方からいろんな方々がここに寄って生きている訳で、それらを紐解きたいなというふうに思っております。

そこで歴史的都市ということで、大阪環状線と同じ形状の鉄道、山手線と大江戸線と名古屋のぐるっと回る地下鉄がありますが、大阪環状線というのは上手いこと丸が収まる城下町の内にある。やはり山手線は大きくて面積でいうと大阪のまちの2.5倍ぐらいあり、規模が違うのですが、1点ここで何が言いたいかというと歴史的都市のループのエリアが面白ければ、都市の魅力が増すということになります。東京は典型的に山手線の周りに渋谷、新宿、上野、品川、池袋といったまちが、歴史的なまちと新しい都心という間を結んでターミナルというのを作っている訳ですね。ある種大阪もそういうふうに言うと大阪駅、梅田、京橋、鶴橋、天王寺、阿部野橋と同じように新今宮という場所もそういう場所に該当していたのですが、歴史の皮肉というか何というか、単なる鉄道が通るまちであったという、ちょっと例外的な存在です。ただ駅が出来てから以降というのは、近年飛躍的にアトラクションという意味を発揮してきているのではないかとということで、基本的にまちの面白さ、大阪の豊かな都市性を高める最後の登場人物新今宮というのをこの釜ヶ崎、あいりんの今後と重ね合わせながらまちの1つの素材として提案することは、東京にもない非常にユニークな存在ですの

で、世界からも注目されるような学びの場として、あるいは都市の舞台として言えるのではないかと考えております。

そういうこともありまして、私はまちの情報誌に連載をはじめまして、連載は今No15まで来ましたが、頑張ってNo20、No30ぐらいまで行きたいと考えております。センターと三角公園は情報量が多く、センターを広く解釈するとその5倍ぐらいまで行くのではないかと思います。私の資料は写真資料に基づいて、あるいは空中写真や地図資料に基づいてやっておりますが、いろんな媒体がいっぱい出ております。ビラから冊子から詩集から様々なものがございまして、今後は登場してくると思いますが、今のところは目に訴えて分かる資料として、学べる形で作ろうと考えております。

南海というものがございまして、この南海というのは、まちづくりの主役ではなかったのですが、ある種大きな城壁を造っていただきました。マイナスというかどうかは分かりませんが、後で説明しますが、ただ言いたいのは鉄道がこれほどたくさんこの地域に集中しているということは、逆に言いますとそれだけ大きな交通流があり、もっと言ったら大きな情報の流れがあるということなんですね。情報の流れがあればあるほど、その地域にその情報がちょっとでも止まれば、すごく大きな文化や社会を生み出していくことになります。南海といえば住吉街道というのが多分それだと思うのです。紀州街道というのは、まさしく木賃宿釜ヶ崎という明治時代に作ったものになる訳で、やはり情報流ということに重要視したいということで南海は2回出しております。

それからこの萩之茶屋を取り巻く様々な周りの地域にもすごい歴史がございまして、私はあえて天王寺、阿部野橋というのを入れました。やはり西成、特にあいりん地域を考える上で天王寺、阿部野橋とは切り離せません。1つは大阪のターミナルとして存在する訳ですが、光り輝く風景だけではないですね。大都市の光と影という部分で天王寺、阿部野橋というのは、両方をずっと併せ持ってきた場所でありました。それが近年、阿倍野再開発やハルカス、天王寺公園の民営化ということがあり、かなり急激に様相を変えております。この変えている様相というのを逆にチャンスととらえ、学びの場を考えてみようという天王寺も含めております。

それからあいりん地域、釜ヶ崎が成立したもとは、新世界、あるいはその上の日本橋の存在であります。日本橋にも触れる予定ですが、やはり新世界の意義というのは大アトラクションなんですね。人を寄せる大アトラクションというのを大阪市はこの地に新世界というまちが出来た前の明治27年に今宮商業クラブというのを作って、南の起爆剤にして行こうということでやったことが、多分いろんな発展で木賃宿が日本橋からこの釜ヶ崎に移転して来るということも含めて起こって来たのだと思います。

その間に関西線という鉄道が入ります。この鉄道がものすごく皮肉な鉄道でございまして、環状線や山手線と比べていただくと分かるのですが、山手線というのは、この鉄道をもって区の境界を作っておりません。渋谷区や新宿区や豊島区というのは、山手線の走っている部分とまったく関係なく、オリジナルなもともとの境界線で作っています。しかし大阪というのは、京橋から新今宮、今宮駅までは全部区の境になっているのです。これは何を意味するのかと言うと、鉄道をもって人工的に新しい境を作ってしまったということです。江戸時代の歴史的な経緯などを踏んでいません。そのため、ものすごくややこしいことを起こしてしまいました。要するに関西線今の新今宮駅が土手を作って登場したことによって、北と南が分断されてしまいます。そして北側には恵美須町、大国町、今宮村、木津村というのがあったのですが、その南側の土地を持っていた木津村、今宮というのは鉄道で分断されてしまった。しかもその3年後には北側は大阪市に入ってしまった、南側は20戸か30戸ぐらいしか

いようなところで成立してしまうということで、まったく白地のキャンバスで新たなものを書いて行くということになってしまった。この新今宮の駅で、高架線、盛り土が出来ることによって市の境となり、新今宮の北側は大阪市、南側は大阪府で、南側では木賃宿を建ててもいいですよ、大阪市側では禁止ですということになり、一番最適な立地が紀州街道沿いで、必然的に紀州街道と関西線が交差したことは歴史の偶然としか言いようがないのですが、そこに新たなまちが出来て行ったということになります。歴史的な自然の経緯なんですけど、人為的に作られて行くということが、ものすごくこのまちの特色になるかと思います。鉄道に関しては、日本一というのがすごくたくさんあって、鉄道の駅にしてわずか1駅の辺りにこれだけ日本一が集中しているのは日本ではあり得ません。その1つの立役者が南海鉄道になるのですが、単にこれは古いというものだけではなく、極めて先進的に複線化し、電化し、複々線化したということで南の大阪堺と結ぶ大動脈をこしらえてきたということによって、阪堺電車もそうですし、阪和線もそうなのですが、多くの鉄道の要をここに設けさせていることになります。南海電車がたまたまここを通ることによって、天王寺支線というのが今はなくなっておりますが、あれもすごく早い段階で南海電車が天王寺と結ぶために博覧会の際に出来たのですが、明治の時代にほぼ今の釜ヶ崎あいりん地域を取り巻く交通網が出来てしまうというすごいことになった訳です。ただこの交通網はほとんど駅というものを介しませんでしたので、当初はただ単なる壁でしかなかったということですが、ここで非常に重要なのが真ん中の下の方に可愛いメルヘンチックな建物がありますが、これはどうも萩之茶屋駅なんです。明治40年の萩之茶屋駅で、これの何がすごいかというと、このときに電化したんです。それまで南海電車は蒸気機関車だった訳ですけども、電車を走らすときになんばの次は今まで天下茶屋やったのですが、その間に今宮戎と萩之茶屋を作ったんですね。この萩之茶屋という駅を作ることによって、この周りに市街地化が始まるというその時にこの建物は何かやったんやろうと気になるのですが、昭和の萩之茶屋駅というのもなかなか味わいのある駅で、また次号くらいでお見せしたいのですが、そういう意味でこの萩之茶屋駅、それから天王寺支線の駅、この2つの駅が出来ることによって一挙に市街地化するということになりました。

この南海の高架というのはすごい構築物で、日本一と言われるほどの高さも幅ももった高架を昭和14年に造ってしまいます。半分ずつ上げて行っただけで、鉄骨を組んで昭和12年に半分が出来て、また後の半分を上げるという形で行っています。日本一最大規模の複々線高架と言いたかったのですが、大阪では阪急中津というところが3複線で、しかも大正14年に出来ていますので、北の阪急中津と南の新今宮が大阪の最大規模の高架構築物と言います。ただ残念なことに、この構築物は鶴橋の駅や京橋の駅も出来て、大阪や天王寺など、この高架によって環状線の高架がすごく潤ったのですが、新今宮は逆に何ももたらされず大きな城壁になってしまったんですね。この城壁が皮肉にも映画「太陽の墓場」では効果的に使われることになりました。それと本当高架の横というのはたくさんの自然発生的な狭小な集落が出来てくるというか、住宅問題への一つの焦点となるようなスペースを逆に作ってしまうという効果があり、この高架をめぐる物語についても単に鉄道の高架だけではなく、地域社会にある種大きな影響を及ぼしてきたことを学んで行きたいと思っております。

住吉街道で再びこの情報をとるか道というのを取り上げて、この意味というのをやって行きたいと思うのですが、まず交通流ですね。それからこの交通流に関しては阿部野橋がございまして。鉄道の結節点ということが、日本では大きなまちを生み出していくという独特な発展をして行きますが、阿倍野もそうです。ここで学びたいことは、短い時間で言いますと民間が作ったまち、盛り場と、大阪市が作ったまち、本当に見事な好対照が学べるということ

で、いわゆる都市再開発とは何ぞや、という様々な意味づけがここで知ることが出来ます。また、なぜここで一生懸命再開発をしたかという、飛田とあいりん地域の近接性というのがある種の線を引きしてしまうというような論調がよく見られます。阿倍野再開発はほとんど日本一の大きさを誇る訳ですが、中央であれば1年、2年で済むところを40年かかったということで、かなり負担もかかり、今は見栄えもいいのですが、なかなか今はこれをマネすることはないような、最初で最後の大規模都市再開発じゃないかなと思います。

逆に近鉄さんはそういう手法を取らずに、徐々に徐々に土地を買収しながらハルカスに至る前のフープとかアンドというのはバブル時代にも虫食いの的に上手いこと買い取って民間主導の都市再開発をしていった訳です。そういう意味ではすごく好対照なものが見えるということになりますが、それもすべて鉄道というものの人の流れや、利益や富というのがまちを作っていくということで、やはり鉄道がもたらす意味というのが再認識出来るのではないかなと思います。もちろん地下鉄もすごいものがございます。そういう意味で阿倍野というのは都市の再開発は何やろう、今よくジェントリフィケーションという言葉が出ておりますが、この場合は典型的な商業主導的なジェントリフィケーションと居住的なジェントリフィケーションの2つが出ている訳ですね。阿倍野再開発の場合、従前の方々は補償金などで移転しているのですが、一つの典型事例として学んではどうかということで、ここに出してあります。そして常に背景には西成と背中合わせにしてしまうという流れがあって、地形的な差異もありますが、西成区と阿倍野区では5倍以上の地価の差が出来ているということもここで学ぶことが出来ます。

天王寺公園につきましては、ここもすごく題材が多くて、戦前だけしか出来ませんでした。天王寺公園では戦前から浮浪者問題という言葉で当時から言われていたのですが、やはり自由に使える公園というのは、伝統というか様々なものを抱え込むことになる訳です。作り手から言いますと、日本で3番目の西洋式大公園ですし、博覧会の跡地利用でもありますし、日本で3番目の動物園、そして公会堂や野外音楽堂など大阪の市民の一つの文化を発信する場所でもあったということです。それから、住友さんの大邸宅があった跡を美術館に変えて行ったという意味で、もっと下がれば江戸時代からの別荘地もあったということで、もっと遡れば和気清麻呂ということもあり、四天王寺と合わせて行けば1,300年以上の長い中で今のあり様が天王寺公園にあるということになります。住友さんはここに10年しか居なかった。莫大なお金をかけて作ったのに、市民から何でこんなところに住友があるんやと言われ、居にくかったようです。そのためあっさり神戸の住吉に本店を移して、美術館や庭園などを全面的に寄付します。日本一の財閥さんの本店の跡を上手に使っているという意味でも学びの場所であるのかなと思います。ただ昔のいろんな資料を見ていると、人を引き付けるような様々な仕掛けが天王寺公園にはあったんだなと改めて思った次第です。これもアトラクションという意味と、公園というのが何を意味するのかという意味でも三角公園、四角公園、仏現寺公園や花園公園も後に取り上げて行くことになると思うのですが、そういう意味で違う観点からこの天王寺公園というのは、もう一度書く必要があると思っております。

それから5ページ目の新世界、少しぼやけた地図で申し訳ないのですが、この新世界は1枚ものにするのはもったいないのですが、やはり江戸時代の絵図からずっと遡って行きますと、今の25号線という四天王寺の西門前から恵美須町の交差点を越えて大国町へ行く道というのは、奈良時代からの道なんですね。四天王寺を造営するために木津の港から木を運んだという1,400年の歴史を持つ道なので、このようなものがゴロゴロ転がっているというのが大阪のまち懐の深さというか、すごいところなんですが、逢坂の坂を下り恵美須町の交

差点へ行くその横の地が今の新世界なんですね。何でこの地が生まれたかと言うと、大阪の当時の江戸時代から明治の初めというのは堺と向き合いながらまちを作って行ったので、南がやはり繁栄の方向軸だったんですね。これは戦後しばらくまで南を繁栄軸というのは地下鉄のあびこの延伸って辺りで長居、我孫子、西田辺が大阪の住宅の中心にしようと、南が中心であった訳ですね。しかも関西線より北が大阪市なので、この間のエリアに商業資本は陳列館を作ろうというのが事の始まりで、それが故に新世界の会場になって行くということになります。大々的な大博覧会の跡地利用ということも含めて、一挙にここに大きな磁場を作って行くということになります。もちろん四天王寺さんも大きな磁場でありますし、もっと言えば戎さんも大国さんも大きな磁場です。今宮村の廣田神社のちょっとした祠の戎さんが大阪商人の富のお陰で独立して戎さんになりますし、敷津松之宮神社木津村の神社の祠の大国さんが商人のお陰で大きくなって、小さな祠が逆に本殿より大きくなったという珍しいのがこの2つ恵美須町、大国町です。また上手いこと地下鉄の駅前になってしまって、今宮と木津という名前がすっ飛ばしてしまったのですが、この今宮、木津というのはすごく歴史のある村で、この地が大阪に近接するというので、この場所が一大集約ポイントになって行くということになります。今宮や大国さん、戎さんもすごいアトラクションなところなのですが、もう一つ人為的なものが出来るということになります。この人為的なものの跡地利用によって新世界が出来るようになって行くのですが、一大テーマパークがここで登場して来ることになります。これが登場することと引き換えに日本橋の木賃宿街、都市改造というのが始まりまして、なるべく道も広げよう、裏長屋をきれいにしようということ、木賃宿街のオーナーはここで商売しても先が余らないということ、大阪府さんが明治30年に関西線の南は大阪府の土地やから、そこやったら木賃宿を指定しますよということ、木賃宿を指定します。そこがたまたま今の萩之茶屋1丁目の辺りになり、そこへ心機一転、新築の木賃宿が新境地を求めて来たということになるかと思えます。これがバカ受けしてすごく儲かったということで住吉街道辺りにも膨らみます。それと自彊館さんは明治37年頃に今の木賃宿が出来た7年後には無料宿泊所を作って行くということ、日本で最初の社会福祉の原点みたいなものが、実は宿泊所を原点としていたということ、これも一つ大きな決定づけたこととなるのではないかと思います。要するに定住型ではない、暫住という言葉を使おうかと思うのですが、しばらく住む、暫居、あるいは滞在型の基盤を明治37年から44年あたりに築いたということ、これも大きなアトラクションになります。少しでも住む、滞在するだけでも都市が利用できる場が出来た。働くということを媒介に住民になるという場が出来たという機能が、結局のところ日本最大の戦前の自由労働市場になって行くということなのですが、それもすべて新世界のこの地と関西線が線を引いたことが強く連携しているということ、これを学ぶことが出来ると思えます。それと連動して飛田や太子、山王で、あと2回くらいは書く必要があると思うのですが、ここで完全に抜けているのが、マッチ工場の存在です。電光稲荷というのがありますが、あの辺りが日本で最初の輸出型のマッチ工場があったところで、これは有名な職事情という明治36年の農商務省の労働ルポルタージュにも出てきます。そういう意味では子供の労働も含めた日本の軽工業の労働の発祥の場所みたいな位置づけも必要かなと思います。大阪が工業化でどんどん人を呼んでいく中で、移民の受け皿の場所として、一つの先見的な場所が実はこの山王であった訳です。マッチ工場には社宅もあり工場労働者の成立というの大きなアトラクションポイントになったのではないのかなと思います。飛田に関しては言うまでもないことで、戦前の都市開発の起爆剤は遊郭なんですね。九条、新今里、飛田が体表的で、公認の遊郭がここにも出来た訳なんです、これで一挙に阿倍野橋から旭を経て商店街の道が出来て、新世界からジャンジャン横丁を新たに作

ったのですが、ジャンジャン横丁というのは、新世界から飛田に行くお客さんを通すためにわざわざ細いところに細い道を作って、今の動物園前につないで行くというすごいアトラクションを作った訳なんです。釜ヶ崎、新世界、飛田を結ぶと三角形となるが、これらの大きな磁場がこの地のその後の発展に大きな影響を及ぼして行く。今日本一のゲストハウス街にというところには触れておりませんが、たまたまこの辺りが太子の交差点を含んで新今宮というイメージ感でもう一つのアトラクションポイントを出しています。外国人宿泊者の棒グラフがありますが、2004年に始めた時が数千人であったのが、15年後には18万人までになり、倍々ゲームで伸び、新たな外国人の集積ポイントとして注目されていることも強調してもいいのではないかと思います。

最後に釜ヶ崎を含め近隣府県を鳥瞰図的に見みると、大和川に実は7本も橋を架けているんですね。こんな短区間、川7キロの間に鉄道が7本も走る、そら何ぞや、ということですね。やはり日本の最大の特質、関西は私鉄王国と言いますが、山々にはすごく宗教施設が転がっているんですね。その奥に吉野、金剛、高野山、熊野なんていうのが控えているので、こういう名所旧跡、寺社仏跡を利用しながら鉄道というのはどんどん出来て行くとともに、海水浴とかそういうようなもので、人を誘って行きます。その通過ポイントとして、これだけたくさん鉄道の西成区を縦断して行く。これをどう活かして行くかということに、ようやく来て来た訳なんですけれど、新今宮駅のあり様の背景に関西私鉄の名所旧跡の豊富さ、こんなのは東京では一切ありません。東京でこんなのを書いていたらスカスカになっちゃうんですね。高尾山ぐらいですね。関西って本当にすごい、大阪だけでもこれだけのものがあるというのは驚かざるを得ないです。そんな歴史的遺産というのを引き付ける鉄道の重要さというのを今後どう扱って行くか。

センターと、あと萩之茶屋三角公園、これらについてもやはり磁場ということで、人をアトラクションする磁場というとらえ方できます。その中でどうしても定住と暫住の間の微妙なところがすごくこの地域の特徴となる訳で、このエリアは複合的に様々なものを組み合わせで作ったということで、住宅改良事業史上では秀逸と言うか、後にも先にもここまでして作ったものはないのではないのかなと思っております。そういう観点でセンターというのはあまり見られていなかったのですが、今は建替えということで住宅が出ておりますが、そういうこともきちんと学んでおく必要があるのではないのかなと思います。当時の文書では大阪市さんも国も厚労大臣も出てきますし、やるぞという意気込みがすごく分かるところです。その過程におけるいろんな写真をここに作ったということになります。萩之茶屋は丸焼けやと思っていたのですが、焼け残った長屋があったというのはビックリしました。2枚目は萩之茶屋小学校側で、3枚目につきましては、センターの北側のところを作っています。北側については、やはり青空労働市場で霞町の交差点から花園の交差点まである種変遷があるので、それはどこかで書きたいと思います。ここにちょうど住宅改良事業の表が書いてあります。1975年度までの大阪市の改良事業の一覧ということで、かなり大規模な買取事業をやったということになります。その過程の写真をいくつか載せておりますが、釜ヶ崎ではこのやり方に関する支出については周知のことだと思いますけれども、なかなか日本人全般が知るといことはほぼないですし、今後の新しい労働や就労のあり方を考えるうえで、このやり方を学ぶべきところ、知っておくべきところはたくさんあると思います。ほとんど日本の人は知りません。こういう実態を知らないで、そういうことをきっちり知って行くような仕掛けというのが必要ですし、センターの中でも、実際の機能として職業紹介のあり方というものはあるかと思いますが、かつての制度を学ぶということは大変重要だと思います。最後に三角公園になりますけれども、三角公園につきましては、なぜ三角になったかという

ことから説き起こしています。答えは簡単で南海天王寺線が上から斜め45度に敷かれただけということになります。戦前はこういうのではなく、密集市街地だったのですが、たまたま焼けてしまったということがあり、都市公園としてリザーブしたという形が今の三角公園としてある訳ですが、三角公園は結構いろんな写真が出て来て、1961年頃に撮影した映画「当たりや大将」や「太陽の墓場」などの写真があります。それから「たそがれコンサート」の第1回の記念すべきシーンの写真や、遊具があった時の写真もありますが、もう一つは公園という公共空間のあり方という、ある種この地域の自由解釈的なところというのをどう表現していった、その自由と規則あたりのせめぎ合いが常にあるということ学ぶという意味では、公園というのは自由だけかなと思っております。映画の分析で結構多いのももう少し探してみたいと思います。「かめつい奴」というのは今後やりますが、面白い設定をしておりますのでまた紹介します。「かめつい奴」の釜ヶ崎は実は恵美小学校なんですね。芦原橋の近くのバラックの写真を選んだりして、釜ヶ崎では撮影に入っていないのではと思われ、少し不思議なシーンがありますので、釜ヶ崎の象徴としてどういう使われ方をしたのかということも見てみたいと思っています。

新しい制度を編み出してきた、新しい事業・企画を編み出してきた、新しい日本一の進取の心意気の伝統、都市史の1,300年以上の系譜以下、この新しい制度、新しい事業・企画というのがですね、制度にも則るともありますし、自由解釈でやって積み上げて行くこともあるという意味では学ぶべきものが、本当にたくさんあるのではないのかというように思っております。こういうのを丹念にどういう形で見せて行ったらいいのかと分からない部分もありますが、地元の方の萩之茶屋商店街や今池商店街などもやらないとあかんですが、まだあまり写真を集めていないので、出来るかどうか分かりませんが、世にもユニークで学びがいのあるまちというのをアクセスしやすい形でどんどん皆さんにシェアしていただけるスペース、機能があってもいいんじゃないかなというのが今日の提案です。

- どうもありがとうございます。まだまだ語り足りないことがいっぱいあるとは思いますが、限られた時間で、ポイントを押さえてお話いただきました。多分年配の人たちは懐かしい思いをしながら、お話し聞かれたと思うんですけれども、この際ざっくばらんにですね、地力、磁力というところに引っ掛けながら、皆さんから質問とかご意見いただければと思います。出だしとして、昔の思い出話みたいなのを誰かしていただけるとありがたいのですが、いかがですか。町会関係の皆さん、何か思い出すようなことないですか。
- 場繋ぎで私の感想など。
- お願いします。
- 改めて、こういうあいりんのことだけじゃなくて、この辺りを環状線の南の弧として、一帯として、一つの産業史ですよ、産業の歴史。それを知る。人々がそこに集まって行く、集積して行く、それが大変な歴史を持っている。一帯として見ると、その中であいりん。でもあいりんって労働者をそういう意味では引きつけて行った訳で、仕事を求めて。すごく違って見えるというのですかね。この50年どう引き継いで行くかという話しだけ、なんていうか大きな意味が込められる気がしますよね。日雇労働者というのは産業の担い手であった訳ですし、そう考えると、なんていうか単に貧困がどうのこうのじゃなくて、すごく大きなところに意味を持っているんじゃないかと思いました。
- 戦前マッチ工場が出来た話しが講師の方からあったかと思いますが、明治の後半から大正の頃、昔は黄燐マッチだったんですよ。結構発火力があったんですよけれども、結構これは、大阪のこの地域と神戸の長田辺りの2大産地だったんですよ。一時マッチの輸出量は世界

一になる時代もあります。その後、マッチが黄燐から赤燐に変わって行くのですが、その時点で大阪のマッチ工場は転換に失敗して衰退して行くんですが、神戸の方はその転換も比較的スムーズに乗り越えて、その後もどんどんまちも発展するんですね。向こうはもちろん労働地域とも絡んだ産業でしたけれども、日本の一つの産業部門としてしっかり日本を支えたということで、非常に大きな力を持った産業、そういう時代でした。もう一つは戦前、今ある通天閣中心に博覧会が行われて、そこが大きな公園に変わっていく中で、日本橋、長町かな、そこにあった木賃宿街が、ある種強制力を持って南に移転して行くという形でこの地域に集まってきた時代があった。とは言っても、その人たちが一つの大きな労働力として、さっきあった町ですとか、ちょっと北にはサントリーも工場が出来ますよね。サントリーとかクボタとか、工場施設があって、そういったところで働いていたのかと思う。

- 萩之茶屋小学校はタバコ専売公社。タバコの工場があった。それを売って、国から市に移管して萩之茶屋小になった。
- まったくどうでもいいこと言いますと、アトラクションという言葉は一般の人が聞くと娯楽と聞こえるが、アトラクションというのは要するに引き付ける力ですよ。そういう意味ですよ。初歩的な言葉のところを押さえないと、エンターテインメントのまちかとなる。
- 戦後は戦災でほぼ壊滅的に、焼け野原になっちゃいましたけど、そこからこの映画「太陽の墓場」に出てくるように、貧困の人たちだけの新しい時代に向かって、活力を持って皆さん頑張っていくという時代がスタートすると、そういうことだったかと思います。他方で大阪の経済、特に建設というところで、どんどん発展の動きがある訳ですが、それを担うということでもって日雇労働者、特に当初は建設だけじゃなくて港湾の労働者の中にも日雇の方がたくさんいましたが、大阪港周辺の小さな日雇労働者の宿もこちらの方に寄せていくという流れもあって、釜ヶ崎に大きな寄り場市場が出来たということかと思っています。併せて簡宿が出来てくるし、また商店街も地域の人たちの生活を支えるものとして発展してくるという流れ。私の整理ですけれども、簡単にまとめるとそういうことです。そういう意味で人を引き付けてきたということだし、またこの地域で引き付けられた人たちが、この大阪並びに日本の経済を担う人として、外に出て行く、発信して行くものも担ってきたということかと思う。そういうところで頑張ってきた人たちの思いみたいなものを、次に、どういうふうにもちの今後を作っていく中で、そういった取り組みをきちんと私たちは見て行く必要があると思う。
- 委員のデータを公開してもらった方がよっぽどいいと思うんだけど。

→ いや、今全然申し訳ない別のことを考えていた。確かに人を引き付けるというか磁場とか地力はいいんだけど、もうちょっと別のことを考えていて。これは昔出席している委員に教えてもらったんだけど、日本の工場労働者は労働学校で作られたんやな。江戸の職人さんがあって、渡り職人なんかで不規則勤務を手前勝手にやるから近代化すると、要するに時間という概念で縛り付けることをこれは会社でないと出来ない。ということで丸抱えになった。これが日本型企業の始まりだ。そういうところは、いいところは社宅も準備した訳だ。そういう渡りという生活をするものが定着路線を、それは工場という生産場を維持するために必要だから。それが建設土木や荷役というのは、まあ荷役は場所は固定だけれども、大概労働力は移動させてもいい訳だ。そっちの方が安くて、抱え込む必要がなかった。その人たちでもしかし、やっぱり住まわさないといけないということでドヤが出てくる。そういう違いがある。それは阿倍野の再開発で、片方は講師の方がさっき言ったような近鉄という大資本な。チョビチョビ元を入れて囲い、片方は30年も40年もかけて地上げして、官がバーンとやった。どっちが成功したんやろうなと言ったら、私はそのうち両方ともこけそうな気がしている。その時に、そういう形でやるのは両方とも定住相手の商売じゃないですか。片

方は住宅の定住者。でも釜の場合は誰が、言ってみれば民間型といえば民間なんや。簡宿が多いんやから。民間資本がまちを、簡宿を建替えながら、街並みを変えてきて、近代化してきた。これは民間資本じゃないですか。民間資本けど近鉄型じゃなくて、分散した民間資本として、その人たちが流動性の高い労働力を提供した宿っていうのがなくなった。その歴史が、引き寄せる力があるといっても、この先、5年先にはないよ、という話になっているんじゃないですか。そこで過去を振り返ったら、そういうやり方したら駄目よという話になって、官がお金を入れてバサッとやる方が正解となりかねないかな。

- 定住では生きていけないだろうから、私は暫住という言葉で売り出したらいんじゃないかなとまだ思っているんです。せめて定着ぐらいなのかなという思いがあって。それはこのエリアのアドバンテージがあるんじゃないのかな、と思うんですけれども。

→ でも民泊にしてしまうか。

- あれは滞在ってやつですけれどもね。

- 4、5年あるいは10年、若い人がここに来て、いろんな仕事で技能を身につけて、一部は残るであろうし、一部は他に行くことも良しとする、そういうことなのかなと思います。都市自体が、結構労働力全体的に流動化しているのは事実なので。強く定着、定住を求めること自体がなかなか、この地域だけじゃなくて大阪とか都市全体において難しい時代なのかなと思います。

→ だからそれはそれとして。それを担ういわゆる住宅以外ではない訳よ。商業だけでまち構成しても意味ないんだから。住宅を短期であろうと何であろうと構えるのに、今の簡宿を持っている人たちが、そういう気構えで自然発生的になるの、それともこういうPRをしたら、いつもある委員の方がおっしゃるように、「方向性示してくれたら、私ら自分の資金で対応する。」となるのか。それでいいのか。それでいいのなら、1960年代・70年代の繰り返しやないか。万博目当てに労働力が5,000も6,000も増えました。国会とかその辺で、「それでいいのか。労働者を集めて、後で面倒どこが見るのか。ちゃんと予算を官で面倒見て担保しなさい。後に繋がるようなことをするべき。」と言ったときに、大阪府の府議会議員さんは、「いや、民間業者のホテル業では、税金たくさん納めている優良企業がいっぱいあり、彼らに対応すると言っているのだから、任せておいたらいい。」と。それで今まで来た。

- 今このエリアだけでなく、住まいとか、ハウジングですよ。ハウジングがかなり多様化しているんですけれども、私の方の建築とか住宅の分野ではまさにそうになっていて、定住型の住宅の限界みたいなものが、いろんなまちで出て来ているんですよ。それが悪い方向に出ると、今出ている違法民泊であったりとか、そういう方向が出て来るとは思いますが。そう考えると歴史的にこのまちはそういう間を埋めて来たまちでもあって、その経験を持っているということだと思えます。他のまちが今、ある意味釜ヶ崎が昔やっていたようなことを、現代的に繰り返しているところがあるんですけれども、そう意味ではこのまちはどういう住まい、定住なのか流動なのか、その間をどう埋めていくのかというのは、かなり重要なテーマじゃないかなと思っていて、これに関しては有識者の中でもかなり議論があって、ある有識者が定住、暫住、滞住、来訪といろんなタイプがあるよねと今おっしゃっていて、例えば講師は中間的な住宅というのがあるんじゃないかというお話しをされていて、僕の場合は定住と流動の間（あわい）というか、間の住宅でもない、ホテルでもないっていう間をこのまちにどう作って行くのかということでもあるのかなと思っていますけれども。逆に言うと、そういうまちってどんなまちなの。誰をこのまちに増やして行くの。どういう人たちがこのまちに住んで行くのというのとセットになって来る。

→ その時の労働は何を想定して、どういう働き方を想定しているのか。

○ だからそれは、労働者としてはどういう人たちをイメージするのか、でも他に住む人はどういう人たちをイメージするのか、セットじゃないと、まち全体はどうなるかといった絵は見えてこない。

→ この周辺にある労働イメージ。大阪のまちで、どういう労働の働き方を供給するものが多いのかということ。

○ 結果的に受け止めて来たこのまちの経験は、現代的に活かせるんじゃないかというところで、このまちの将来をどうするのかという話しは、もう少し議論いただきたいテーマではある。子どもの声が聞こえるというのは、子どもの世帯、どういう世帯を呼ぶのかというのとセットですよ。

○ 住宅と仕事の話しですよ。関連してかも知れないですけど、簡宿の利用者、本当に旅行者、福祉受給者も増えて、それ以外の労働者の人たちの構成もこの間色々調べてみると、またデータはしっかりしたもの出したいと思いますが、日雇労働者が50%を切っています。もう4割ぐらいになっているかなといった感じです。しかもその日雇労働者の人たちもどうも話しを聞いていると、必ずしもセンターを利用していない人たちも一定数居ています。ちょっと何%というのは、分析中で正確には言い切れないところがあるんですけども。労働者の中には、特に若い世代は、派遣、それから契約社員といった形態が増えていて、仕事は建設関係や、それ以外のサービス業なんかもあるんですけども、そういう状況になっていたりもします。それともう一つは、簡宿ではなくて、建設労働者の人夫出しの業者さんの話しや労働者の話しを聞いていると、やはり宿舎に入っている人たちは、このあいりんにもいくつかあると思うんですが、ほとんどセンターのことを知らない。行ったことも無いという人たちが結構多いという現状も見えてきたりするんです。といっても生活の場は、実際にこの地域内の会社の宿舎だったりする訳です。だから居住者として建設労働者は住んでいるけれども、新しい形の働き方というか、求職の方法が変わって行っているような状況です。その人たちが、じゃあ、社会的な問題を抱えていないのかというと、必ずしもそうではなくて、いろいろ課題を抱えているという話しが見えてきたりします。

→ 日本人の問題もそうだし、最近周辺で見えてきているのは、はっきり言って留学生問題だろう。留学生問題が終いには移民問題になる。近所のマンションに、狭いマンションにベトナム人だかなんだか。

○ 日本語学校の学生ですよ。

→ 学生じゃない。あれはもう学生とは呼ばない。帰って来るのが深夜になっている。明け方ぐらいに自転車に乗って、バイトしてるのだろう。あれは労働者だ。学生、学生言うているけど、ごまかしだ。

○ 就学ビザを使った就労者ですか。

→ 昔の出稼ぎ外国人労働者と言っていたのと同じ。あのタイプの話はたくさん出ているし、出て来る。それを受け入れているのが、今言っているマンション。この近所のマンション安いからね。三畳一間とかに詰めこんで住んでも文句を言わない。

○ まあ、労働者の話しを聞いている中で花園公園の近くのマンションに住んでいる方が、周りは留学生ばかりで、夜も安心して寝られないとか、いろんなトラブルも結構発生しているように聞きます。

→ 日本人だけのところで論議しても、意味がなくなって来ている。

○ 地域内にも日本語学校ありますよね。この辺りの情報は、どなたか持たれてないですか。日本語学校がありますよね、あいりん地域に。

- あと何かご意見ないですか、ご質問とか。今日は貴重なお話を講師の方からいただきました。一つは、今後のまちの労働を中心とした街並みをどう考えるかに活かして行きたいということで考えて行きたいと思っております。一方で講師の方の思いとしては、アーカイブ、資料館みたいなものを彼はやっている訳ですが、その施設をどこか、これは市なのか府なのか分かりませんが、新しく今センターの建っている場所に来るであろう建物の中に一つ部屋を作って、こういう歴史的資料を残して行きたい。それを単に保存するのではなくて、社会に対して発信して行く、それはいろいろな工夫をする中で、発信力の高いものを仕上げていくことは出来るだろうと思うんですけれども、彼はそういうこともあって、今日ここで話しいただいたということです。
- 委員の方からあった質問に、もう一度整理して回答いただく時間を作りたいと思います。質問、冒頭されていますよね。
 - はい。
- 大阪府と労働局に質問されていましたね。
 - 二つありますね。
- 先ほど7億いくらとおっしゃっていた件を私から説明させていただきます。
 - 予算の話しやな。
 - 建物が大体7億ぐらいで、IT関係が1,900万とおっしゃったと記憶しているんですけど。
- 本日、お手元にお配りさせていただきました前回の議事概要を見ていただけでしょうか。19ページの下から4行目から、ちょうど今委員おっしゃられたところの部分、前回大阪府の予算案の編成過程をご報告したところにちょうど当たるかと思います。
 - 何ページっておっしゃいましたか。
 - 19ページ。
- 上から6行目、7行目ぐらいを申し上げます。「まず仮移転施設の建設費用ですけれども、現在6億9,300万余円ということになります。それとIT化の推進は2,900万余円ということで、それとかなり時間、5ヶ月程掛けてご意見を頂戴しました、若者や女性にターゲットを絞った不安定労働層への支援について、確か11月の時に施策検討の徒についてことをご報告いたしましたけれども」という部分で、モデル事業1,000万余円というふうなご報告したと記憶しているんですけれども、その7億というのは、申し上げておりません。
 - まあ、合わせて6億9,300万と、このまあ1,900万とその時間いたんですけれども。
- 申し訳ないのですが、1,900万とは申し上げておりません。
- 2,900万の聞き間違いかな。
- ネット情報を今日もお持ちすればよかったのですが、申し訳ありません。
- ちょっと質問です。要は事実確認されているんですかね。
- そうそう。そうしますと合計はいくらになるんですか。
- ここにあがっている金額を足せば。
- 合計は、数字のことなので、違った数字ではまずいので、持ってきていけばよかったんですが。耐震化という事業に関しては、7億、数字が違っているとだめですので、今、ネットで確認します。
 - ですからね、きちんとした数字をこの会議で言っていたかかないと。
- 前回は速報で、予算編成のまだ途中経過になっています。明日はちょうど知事が来年度予算

案の記者発表というのがありますが、翌日ぐらいには予算案として報道資料提供されると思います。それまでは、具体的にはここに載っていますけれども予算編成過程となりますので、厳密に言いますと数字は動いて行きます。ただ、公表したということをお伝えするため、まずは、ネット環境を持っていない方にもお伝えしたいという思いでお伝えしたもので、紙ベースではいたしませんでした。

→ 紙ベースはございますよ、ここに。

○ 確定したものはまだない。

○ インターネットで見ただけなら結構なんです。

→ だから議員に、大阪の府会議員に配られた、これには出ていますよ。合計したら7億4,912万1千円。これと違うの。

○ それです。それです。

→ これ議員には配っているやないの。

○ それは内示額となっていると思います。内示額となっていないか。まだ確定していないんです。

→ でも、これ議員に配っていますよね。こういう額やでと。あくまでも予算やから。

○ 予算案のまだ内示額です。皆さんは、あまり言葉としてご存じないと、ご理解いただけないかと思うんですけども。

→ もうちょっと正確にね。

○ 予算案ではなく、内示額です。途中で。

○ 何が問題なのか。私よく分からないんですが。

→ いや、ここで曖昧なその、発言をされずに、きちんとした発言をして欲しいという意味です。

○ 7億1,900万という件は、よろしいですか。委員のおっしゃる7億1,900万というのはどこにもないんですが。

→ 7億4,912万1千円、という予算案が出ていますね。あなたのところが出しているんじゃないんですか、これ。

○ 内示額です。

→ あのね、政調会資料18です。府会の議員の方に渡しているやつ。ええかげんなこと言わんといて欲しいと言うてるの、ここで。

→ さっきの3つの数字を足すと、7億3,200万になるのかな。

○ はい。

→ 委員が言っているのが、7億4,900万か。要するに1,700万違うよと言いたいのか。

→ 違う、違う。だからきちんとね。

○ きちんとは分かるんですが、今確定した金額自体がないので。

→ ええかげんな発言をせんといて欲しいと言ってるの、ここで。

○ 行政の中で議論している途中なので、金額自体がその都度増えたり減ったりしている状況だということです。

○ インターネットで公表しましたので、私がインターネットから打ち出したものを皆さんにお配りしたらよかったんですが、そこは申し訳ないなと思いますけれども、数字はあの時点では固まってものではなかったということだけは、ご理解ください。

→ ああ、でも、これは間違いはないんですね。

○ はい。

→ 間違いはないんやね。

○ 内示額は間違いございません。

→ はい。

○ 近いうちに予算が確定するそうなので、その確定した金額をきちんと報告いただくということをお願いします。

→ それともう一つありましたね。国会が空転するっていう話し、国が予算あの時点で発表したら。予算ですよ。

○ それについて、どういう質問なんですか。

→ そういう事例があったのかということ。

→ そう。具体的にどういう事例を指しているのか教えてください。

○ 具体的なものです。

○ この議事録の20ページ目の上から2つ目の丸のところがちょうど私がお話しをさせていただいた内容になっているんです。「以前実はですね、国会の予算審議中にですね、庁舎関連予算が外部に漏れたという経過があったみたいでして、国会が空転したという事例があったと聞いているので、今の段階で金額をきちっと明示させていただいて、これだけですよという話しは、ちょっと今の段階では差し控えさせていただきたい。」こういう話はさせていただいたところですよ。

→ だから、具体的に教えてください。

○ 具体的にどの国会でどういうふうにという話しは、私もここに書いてあるように、そういう事例があったと聞いているだけです。

→ あんたが発言された。

○ どの国会でどういう発言で、どうだこうだという細かいところまで聞いていませんので。

→ それ誰から聞いたん。あんた直接自分で調べた訳じゃないの。誰かに聞いた話しを。

○ そうです。聞いた内容をお話したと。

→ 誰に聞いたの。

○ それは先輩であり上司でありというところから聞いた話しですから。

→ それをそのままここで受け売りして話した訳やな。

○ 委員にしてみても、それは大事な論点なんですかね。

→ いや、何回も言うけどここできちんとした話しをして欲しいと言ってるの。誤魔化しとか嘘やとかね、隠蔽とかはせずに。

○ 隠蔽。

→ 曖昧な話しでごまかしたらあかん。

○ ではきちんと調べていただくということでよろしいですが。

→ きちんと調べるも調べないも、問題は府が予算を出したのに、何で国は出せないのというところが問題で、それは府と国で、府と区は情報公開していますよ。

○ 仕組みが違う。

→ そう、それだけの話しでしょう。だから事例がなくても、うちとこは出さなのが作法なんですと言えば終いなんでしょう。

→ 何を言うてるのか、あんたの言うこと分かれへんけど。

○ 一つは委員がおっしゃられたけれども、文書でもあれば、こういうルールでやりますというね。

○ はい。

→ この場でええかげんなことを言わんといて欲しいと言いたいねん。

○ もし、国会のことについて、事実関係が分かれば、出していただきたいと思います。以上ですか。

→ いや、南海電鉄に関して。あの柱ね、事務局さん。あれ非破壊検査はされたんですか。

○ 私はそういうことはお聞きしていません。

→ そうしたこと南海電鉄から聞いていますか。

○ 非破壊検査ということはお聞きしていません。

→ じゃあ何の検査されたんですか。

○ 南海電鉄の中で検査をされたとお聞きました。

→ どんな検査をされたんですか。

○ その検査の手法まではお聞きしていません。

→ ではそう聞いておきます。

○ 他なければ、締めて行きたいと思いますが、よろしいですか。

→ 前回の話し。

○ ガードマンボックスの話しですか。

→ 来年度から建物が始まる訳でしょ。だから基本設計は終わって、施工して行かないとあかん段階だろうから、具体的にどういう絵柄になったのか。私は前回、詰め所もなければ何にもないということで意見を言ったんだけど。

○ ガードマン詰め所の話しですね。

→ 諸々の施設関係が入ってないから、どないするんだという話しをしたんですけど。そこら辺については国と府でどう調整したのか。

○ 前回、委員の方から曖昧なままでは駄目だとのことがあり、議事概要にも載っておりますが、関係者が集まり対応方針を検討させていただいています。時間もないのですが、未だ結論見が出せない状況で、次回の会議には何とかご報告できるようにしたいと思っております。もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

→ 時間切れで、検討してももう無理なので諦めてくださいとにならないようにね。ずるずる引き延ばして、後がないから止めますとはならないように。

○ 分かりました。

→ ガードマンの予算は付いているのか。来年は、まだ今のところであるのだろう。再来年度予算の話しは、今からしても無理ではないのか。

→ 予算の話しじゃなくて、場所の話しです。

○ 設計の話しですね。

→ 最初から作っておかないと、後付けでは作れないから言ってる。

→ なんとか作りますと言ってるんじゃないのか。

→ それで出来るならそれでいいけど。

○ どっちにしても、予算はもちろん再来年のことなので、今の段階では報告できないと思いますが、どこにという設計レベルの話しについては、次回3月のこの会議の時に報告してください。

→ ガードマンボックス作ると言ったら、再来年も予算を付けますと言ったのと同じことになるのではないかと。

○ 今の予算内に収める話しかもしれないですし、私が発言することではないんですけども、そこは次回とします。

○ できる限り早く、関係者の中で調整案を取りまとめてご報告させていただくように努力します。

→ 大阪市は私もう懲りてるからね。そこら辺はいい加減にしないようにしてください。

○ よろしくお願ひします。後は、いかがですか。この間、機能についていろいろ一年近くかけて議論してきた訳ですけども、今日の歴史的な話しに限らず、ざっくばらんにこれまでの議論を振り返って、ご意見いただければと思います。

→ 今の委員の意見とも被るところあるんですけども、もう工程表で言うと来年度は仮移転ということで進んでいます。再来年度と言うと、この一年ちょっとという中で、仮移転も目の前ですよ。その中で、今まで仮移転だけについてもいろんな意見出ているにも関わらず、なかなか目に見える形で何も答えが出てこなかった。図面もあるけれども、ここには限界があるねという話しを散々重ねていながら、じゃあどうするのかというのがなかなか見えて来ないです。そういう見えづらいところ、どうするかという不安感というのは、私も持ち帰って相談するんですけど、たくさんあるんですよ。見えて来ないし、私も説明できないから。さっきみたいに、時期が来ましたので、しょうがないのでこうしますと言うようなのは、まさか無いとは思いますが。私の感覚でも行政さんは今まで散々やってきたことだから。そう思いたくないけれど、そういう不安があるからね。皆、どうなっているのかと思う。だから何かというと、具体的に進めていかなければいけない、話し合っただけで決まるとはいけないことは、一方で進めていかないといけません。今日のような話し、じっくり皆で考えないとあかんことは考えていかなければいけないです。その辺をこれから、再来年度に向けて、どういう形で話しして行くのかなということ、それすらも私ちょっと分からない。ゆっくり話しができることなのか、切羽詰っているのか、そこすらも段々見えなくなって。でも工程だけは決まっているから、それに間に合わなければ、お上から決定すると。こんなふうになるんじゃないかという不満を、散々聞いています。

→ だから、ペンディングになっているというか、あやふやになっていると思っている点を箇条書きにして、これを詰めようねと言ったらいい。

→ こっちから出すの。

→ そう。そうしないと話しが進まない。思っている人が出す。

→ もう一つ言わせてもらったらね、今日の話しは私個人的には歴史の勉強ってありがたいと思うんですが、これ持って帰って説明しろと言われても本当に私は無理。以前もね、ゲストをお呼びして講演聞きました。さあ、私持ち帰って2箇所3箇所報告しても、その人の代わりに報告なんか出来ないですよ。今日の話しなんて特にそうです。かといって、この印刷物を増す刷りして配ったところで、何が伝わるかって言うと、多分それだけじゃ伝わらないし、一応持って帰って報告する立場としては、どう報告すればいいのっていうのが正直あります。できれば議事録が1ヶ月遅れ2ヶ月遅れで来るんですけども、もうちょっと情報早く入れば、これ見てくださいで済むんですけどね。今日の報告をしようと思ったら、本当に3分ぐらいで終わります。やり取りした部分しか報告できないから。本当は内容が濃かったのに、私はよう報告せんからね。そういう辛さがあるので、どうしようかなと。

○ 私が答える立場じゃないんですけども、私も今の問題意識と同じなので。我々もまちづくり広場っていうのをやっていますので、同じ様に本日の講師の方に来てもらって、同じ資料使って、もっと時間を掛けて、そういう場を設けたいと思いますので、補足として使ってください。

→ 相乗りしましょうと。

○ 来てください。

→ 先ほど委員が言っていた委員側から出してくださいという話しやけど、逆に有識者の方から、あるいは大阪府の方から、これからこういうふうに議論を進めますみたいなのは出ないんですか。逆にこっから出さないとかあかんのですか。

- 去年の12月の場合は、その一年の議論を整理して、4月以降こういう課題があるので、それについてやろうと考えていますという資料を出させてもらったと思います。
- あれ一応1クールというか、区切りが来ましたよね。
- 同じようなことは、どこまで言っているのかわかりませんが、考えております。それはちゃんとその年度での整理すると同時に、次の課題をしっかりと提示するというのが、私達の仕事だと思っています。
- 委員の言うことも分かるけれども、相手任せにして、あなたたちが提案出してと言っていたら、やっぱり引きずり回されている感じは拭えない。私たちはここを疑問に思っている、ここをはっきりさせたいと出した方がいいのよ。気持ちがすっきりするからね。
- まとめのような話しに半分なっているけれども、今年度やって来たのは機能の議論が中心だったと思うんですね。それを踏まえて、もう少し機能の議論は整理する時間が要るかも知れませんが、来年度は基本的に規模の話し、具体的に建物の規模感、それにどういうものを盛り込むのかというふうな議論をすることになります。
- 補足としまして、確か12月に今後の検討いただくスケジュールを変更のうえお示しいたしましたが、大事なことは、どういう機能を持たせて行くかということで、今は、新たな機能に当たる部分を検討いただいています。冒頭はセンターの業務の改善という内容だったと思います。今はプラスアルファのお話で、新たな機能の検討は簡単に終わらせられないということで、機能議論の取りまとめは新年度とし、その後に規模の取りまとめに入っていくというふうな予定をご用意していたかと思います。今日もこのような貴重なお話しを聞かせていただきましたので、新たなご提案とかアイデアとかをいただきたいと思います。残っている3つの検討テーマの具体的なお話しは、まだ出ていませんので、もうちょっと時間を掛けさせていただき、一定機能の議論を取りまとめた上で、次はどれだけの規模が必要になって来るのかという議論に入っていけるかと思っています。6月、7月、8月ぐらいまでには、まとめきらないといけないと思っています。予定を3、4ヶ月は後ろにずらしてでも、きちりご意見聞かせていただきたいというイメージです。
- ただ今言われたように、仮移転というのは待たなしで動いているので、今言われたような、何が決まっていなくて、何が起こるかもしれないとなると、1個1個決めていかないと厳しいと思います。それは是非、丁寧にやりたいと思います。
- 具体的には仮移転施設に係る建物としてのハード面です。仮移転は31年春ということで、運用面のソフトの部分についての検討は、時間は一定あると思います。また予算も平成31年度予算なので、来年の今頃になってようやく見えてくると思いますが、物を作るときのハードについては、ぎりぎりのところで、今もいつまで置いておくのかと、お叱りはそういうことかと思っています。
- そういうことです。理屈抜きで、今のセンター機能はそのまま仮設にも移すということが前提だからね。予算とかではなく、作らないといけないものは作らないといけない。それを次の3月には絵柄として図面に落としてきてください。
- 最後のまとめに移って行きたいと思っています。前回は、センターを中心とした歴史の振り返りを有識者にしてもらいましたが、今日は講師の方にお越しいただいて、もう少し広域に、この地域の周辺を含めた過去を振り返りつつ、今後の労働センターの新しい機能のあり方を検討するにあたり、さらに、できれば地域全体の今後のあり方も考えるという点も含め、いろいろ参考にさせていただきたいと思っています。

もう一つは先ほども議論ありましたが、来年度はですね、具体的にいつからというのはまだ確定しておりませんが、規模の議論をしっかりとっていくということで、今後皆さん方にご協力いただきたいと思いますと思っています。

それから仮移転に関して、特にガードマンボックス等についてどうするのか、3月がタイムリミットだということですので、行政の方からしっかり案を示していただきたいと思いますと思っています。

私からは以上です。次は、報告事項です。

- 本日お持ちいたしております第26回労働施設検討会議の議事概要について、修正等ご意見ございましたら、今月22日までにご一報いただきますようお願いいたします。なお、ホームページに前回会議での議事概要はアップさせていただきました。また、議事要旨は、区役所さんのホームページに載せさせていただくものです。それから、次回3月の会議は、3月19日月曜日、こちらの場所お借りして開催させていただきますので、よろしく願いいたします。
- 次に、区役所さんから。
- はい、お時間がなくて申し訳ありませんが、前回この会議で原版を出させていただいたんですけども、労働施設が仮移転の後、本移転で戻ってきますという、実際に地域に貼り出すポスターです。これが現物です。この大きさをセンター内と地域内に掲示をしていきたいと思っています。大体時期的には2月末ぐらいから貼り出したいと思います。
- その大きさを言うのはボードの大きさじゃないよな。それ3枚合せて。
- これが原寸大です。
- そっちの日程表は一枚物じゃないんだろ。
- 絵と日程表で一枚です。ここで分かります。
- 貼り出し方は。
- 貼り出し方は、場所にもよりますが、基本的にはこの形で貼り出そうと思います。以上、ご報告させていただきます。
- ありがとうございます。他皆さん何かございますか。
- 今日の東洋経済か何かに建設産業の特集が組まれていたと思うんですね、この間のゼネコンのいろんな不祥事の問題もあるんですけども、後半の方に労働市場のあり方もちょっと出てて、今日持って来ようと思っていたのですが、うっかり大学においてきちゃったんですけども、やはりオリンピックの以降のことが結構心配されていたり、実際、現在すでに相当労働力不足。特に若い人たちが建設産業に魅力を感じない現実があって、企業さんも大変だと。なかなか日雇労働のことまで出ていなかったんですけども、この建設産業全体のことを知る上で参考になると思うので、関心のある方は見ていただきたらと思います。
- 前回も言ったと思うんですが、今日は大阪市さんが来ていないんですけど。もう呼ぶ予定はないんですか。
- 今回はご予定があって、お越しいただけませんでした。次回以降、お越しいただける時にお越しくださいとお伝えしています。
- 一応声掛けはしています。
- 呼んでるのは福祉局。
- 毎回ここに来ていただけるかということ、必ずしもそうではありません。特にテーマがある時は、絶対に来ていただきたいと思います。